



## 平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 20 年 1 月 30 日

上場会社名 株式会社キョーリン 上場取引所 東証一部  
 コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荻原 郁夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 伊藤 洋 TEL (03) 3293-3420

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 20 年 3 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

#### (1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	62,325	9.4	5,788	△0.4	6,278	2.9	2,687	△22.9
19年3月期第3四半期	56,961	—	5,814	—	6,101	—	3,483	—
19年3月期	77,093	—	8,413	—	8,655	—	4,842	—

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期	35	90	—	—
19年3月期第3四半期	46	81	—	—
19年3月期	64	97	—	—

(注) 19年3月期より開示を行っているため、19年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
20年3月期第3四半期	121,568		97,872		80.5	1,307	96	
19年3月期第3四半期	119,579		96,913		81.0	1,294	04	
19年3月期	124,039		98,178		79.2	1,311	17	

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー		投資活動による キャッシュ・フロー		財務活動による キャッシュ・フロー		現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円		百万円		百万円		百万円	
20年3月期第3四半期	1,691		△4,754		△1,676		8,090	
19年3月期第3四半期	1,416		△2,479		△2,513		10,025	
19年3月期	5,005		△3,140		△2,627		12,842	

### 2. 平成 20 年 3 月期の連結業績予想 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

【参考】

(%表示は対前期増減率)

通 期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	83,400	8.2	7,900	△6.1	8,500	△1.8	3,700	△23.6	49	44

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

(注) 詳細は、5 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。

**※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項**

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は、5 ページ【定性的情報・財務諸表等】

3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

株式会社キョーリン（以下「当社」）グループの中核である医薬品事業が属する国内医薬品業界の当第 3 四半期の状況は、将来に向けた医療費・薬剤費の抑制策等の医療制度改革が活発に議論され、国内市場の更なる拡大は望めない状況が予想されるなど経営環境は一層厳しさを増しております。また、薬価制度、高齢者医療制度等は未だ先行き不透明な状況で推移しております。

このような状況下、当社グループは平成 19 年度の経営方針「目標達成への成長軌道の確保」、重点項目①グループシナジー追求による成長促進、②ブランド経営の推進・定着、に積極的に取り組みました。

この結果、当第 3 四半期の業績（連結ベース）は

売上高	6 2 3 億 2 5 百万円	（前年同期比	9 . 4 % 増）	
営業利益	5 7 億 8 8 百万円	（前年同期比	0 . 4 % 減）	
経常利益	6 2 億 7 8 百万円	（前年同期比	2 . 9 % 増）	
当期純利益	2 6 億 8 7 百万円	（前年同期比	2 2 . 9 % 減）	となりました。

販売の状況につきましては、以下のとおりであります。

①医薬品事業

国内新医薬品では、呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科に営業資源を重点化する F C（フランチャイズカスタマー）戦略を推進し、最大限の販売力発揮に努めた結果、4 9 1 億 1 7 百万円（前年同期比 1 2 . 8 % 増）の売上を計上いたしました。主要製品では、ロイコトリエン受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤「キプレス」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」が順調に推移しました。平成 19 年 6 月に新発売いたしました過活動膀胱治療剤「ウリトス錠 0 . 1 m g（一般名：イミダフェナシン）」におきましては重点領域である泌尿器科を中心に新規採用及び処方拡大に積極的に取り組んでおります。また、ロイコトリエン受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤「キプレス細粒 4 m g」を乳幼児用の新剤形として平成 19 年 10 月に新発売いたしました。キプレスの製品ラインナップの充実を図り、市場ニーズにお応えすることにより、気管支喘息の治療に一層貢献してまいります。一方、気管支喘息・脳血管障害改善剤「ケタス」、活性型ビタミン D3 製剤「ロカルトロール」、胃炎・胃潰瘍治療剤「アプレース」は前年を下回る実績となりました。

ジェネリック（後発）医薬品では、キョーリンリメディオ株式会社（旧：東洋ファルマー株式会社）を主体とする売上は、昨年度、キョーリン基準に沿った高品質の追求、採算面から一部製品の販売を中止した影響及び受託製造収入の減少により 3 7 億 8 6 百万円（前年同期比 5 . 9 % 減）となりました。

海外新医薬品では、広範囲抗菌点眼剤「ザイマー（導出先；米国アラガン社）」の現地売上は計画通りに推移し、ノバルティス社に導出した免疫調整剤「K R P - 2 0 3」に関する一時金収入等はありませんでしたが、広範囲合成抗菌剤「テクイン」は導出先である米国プリストル・マイヤーズ スクイブ社の販売中止により、原末輸出及びロイヤリティ収入が減少し、その結果、売上は 3 1 億 5 4 百万円（前年同期比 1 . 0 % 減）となりました。

## ②ヘルスケア事業

一般用医薬品では、杏林製薬株式会社及びキョーリンリメディオ(株)の一般用医薬品等の売上が前年を下回ったものの、製剤技術を応用した化粧品事業を行うドクタープログラム株式会社の売上増加が貢献し、53億72百万円（前年同期比3.2%増）となりました。今後とも、ハイリスク・ハイリターンかつ長期スパンである創薬ビジネス・医薬品事業を補完し当社グループの安定成長を支える事業として体制の強化を図り、早期の収益拡大に努めてまいります。

## ③販売促進・広告の企画制作

販売促進・広告の企画制作事業では、売上高7億69百万円（前年同期比1.5%減）の実績となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況につきましては、感染症、免疫・アレルギー、代謝性疾患に研究領域を重点化し、資源を集中的に投入しております。杏林製薬創薬研究所、米国A c t i v X社、キョーリンスコットランド研究所において日・米・欧3極での創薬ネットワークを構築し、魅力ある製品の効率的な開発を推進しております。

国内開発の進展状況としましては、ロイコトリエン受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤「キプレス細粒4mg（一般名：モンテルカストナトリウム）」を平成19年10月に新発売いたしました。また、「キプレス錠10」におきましてはアレルギー性鼻炎（成人）の効能・効果を取得し、成人用新剤形として「キプレス錠5mg」の製造販売承認を取得しました。

導出品及び導出展開の状況につきましては、M e r c k & C o . , I n c . と感染症領域での共同研究を平成10年より進めておりましたが、契約期間の満了に伴い、新たな共同研究契約を締結し、新しいタイプの合成抗菌剤開発を目指します。

この結果、当第3四半期の研究開発費は82億57百万円（前年同期比39.4%増）となりました。

利益面では、主要製品の好調な推移、原価率の低い自社製品の上市及びビジネス譲渡に関する一時金収入等により国内新医薬品の売上が増加すると共に、売上原価率も38.2%と前年同期に対し2.4ポイント低下し、売上総利益は前年同期比46億53百万円増となりました。一方、販売費及び一般管理費は、杏林製薬(株)の研究開発費の増加、新製品の発売対応による販売費の増加及びドクタープログラム(株)の売上拡大に伴う販管費の増加等により前年同期比46億79百万円の増加となり、その結果、営業利益は57億88百万円（前年同期比0.4%減）となりました。特別損失は4億66百万円を計上しました。またキョーリンリメディオ(株)におきまして繰延税金資産を取り崩した結果、当第3四半期の純利益は26億87百万円（前年同期比22.9%減）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産では、主に棚卸資産が32億91百万円、投資有価証券が24億13百万円それぞれ増加しましたが、現金及び預金が36億10百万円、有価証券が10億38百万円、その他（有形固定資産）が12億16百万円、商標権が6億23百万円、繰延税金資産（長期）が7億47百万円それぞれ減少しました。前連結会計年度末と比較して総資産は24億71百万円減少し、1,215億68百万円とな

りました。

負債につきましては、主に支払手形及び買掛金が 1 1 億 7 1 百万円増加しましたが、未払法人税等が 2 3 億 8 0 百万円、賞与引当金が 9 億 1 5 百万円それぞれ減少しました。前連結会計年度末と比較して 2 1 億 6 6 百万円減少し、2 3 6 億 9 5 百万円となりました。

純資産につきましては、主にその他有価証券評価差額金が 2 億 8 1 百万円減少したことにより、前連結会計年度末と比較して 3 億 0 5 百万円減少し、9 7 8 億 7 2 百万円となりました。

この結果、自己資本比率は 8 0 . 5 % となり、前連結会計年度末より 1 . 3 % 増加しました。

(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1 6 億 9 1 百万円の収入であり、この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益 5 8 億 2 5 百万円、減価償却費 3 3 億 6 8 百万円、仕入債務の増加 1 0 億 5 3 百万円による増加、棚卸資産の増加 3 2 億 9 1 百万円、法人税等の支払 4 5 億 3 7 百万円による減少です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、4 7 億 5 4 百万円の支出で、これは主に有形固定資産の取得による支出 1 8 億 5 5 百万円、投資有価証券の取得による支出 7 4 億 8 7 百万円、投資有価証券の売却(償還)による収入 4 8 億 0 2 百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、1 6 億 7 6 百万円の支出で、これは主に短期借入れによる収入 6 億 0 0 百万円、長期借入れによる収入 6 億 0 0 百万円、配当金の支払 2 5 億 6 4 百万円によるものです。

この結果、当第 3 四半期末の現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末と比較して 4 7 億 5 1 百万円減少し、8 0 億 9 0 百万円となりました。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第 3 四半期までの業績は概ね計画通りに推移しており、平成 19 年 11 月 7 日(中間決算発表時)に公表いたしました連結業績予想につきましては現時点での変更はございません。

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

#### (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

1. 棚卸資産の实地棚卸の省略 : 帳簿棚卸によって算定しています。
2. 法人税等の計上基準 : 一部簡便的な方法を採用しています。

#### (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5. (要約) 四半期連結財務諸表  
 (1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)		当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)		(参考) 前期末 (平成19年3月期末)		増 減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
(資産の部)		%		%		%		%
I 流動資産								
現金及び預金	10,951		9,138		12,749		△ 3,610	
受取手形及び売掛金	30,113		31,473		31,514		△ 41	
有価証券	111		72		1,111		△ 1,038	
棚卸資産	14,009		17,905		14,614		3,291	
繰延税金資産	1,805		1,808		1,993		△ 185	
その他	2,817		2,630		2,961		△ 331	
貸倒引当金	△ 69		△ 102		△ 83		△ 18	
流動資産合計	59,740	50.0	62,927	51.8	64,860	52.3	△ 1,933	△ 3.0
II 固定資産								
有形固定資産								
建物及び構築物	12,011		12,071		11,721		349	
その他	7,686		6,698		7,915		△ 1,216	
有形固定資産合計	19,698	16.4	18,769	15.4	19,637	15.8	△ 867	△ 4.4
無形固定資産								
商標権	1,412		580		1,204		△ 623	
のれん	1,767		1,152		1,614		△ 461	
その他	1,333		1,077		1,298		△ 221	
無形固定資産合計	4,513	3.8	2,810	2.3	4,116	3.3	△ 1,306	△ 31.7
投資その他の資産								
投資有価証券	30,169		32,483		30,070		2,413	
繰延税金資産	3,850		3,028		3,775		△ 747	
その他	1,987		1,655		1,696		△ 40	
貸倒引当金	△ 380		△ 106		△ 117		10	
投資その他の資産合計	35,627	29.8	37,060	30.5	35,424	28.6	1,635	4.6
固定資産合計	59,839	50.0	58,640	48.2	59,179	47.7	△ 538	△ 0.9
資産合計	119,579	100.0	121,568	100.0	124,039	100.0	△ 2,471	△ 2.0
(負債の部)								
I 流動負債								
支払手形及び買掛金	8,003		10,859		9,687		1,171	
短期借入金	701		1,270		687		582	
未払法人税等	1,465		80		2,461		△ 2,380	
賞与引当金	1,203		1,219		2,134		△ 915	
返品調整引当金	45		63		64		△ 0	
固定資産解体引当金	335		—		335		△ 335	
ポイント引当金	—		47		—		47	
その他	4,795		4,053		4,570		△ 516	
流動負債合計	16,548	13.9	17,594	14.5	19,941	16.1	△ 2,346	△ 11.8
II 固定負債								
社債	240		180		210		△ 30	
長期借入金	666		1,008		593		415	
退職給付引当金	4,702		4,413		4,611		△ 197	
役員退職慰労引当金	283		284		285		△ 0	
その他	223		214		220		△ 6	
固定負債合計	6,116	5.1	6,100	5.0	5,920	4.7	180	3.0
負債合計	22,665	19.0	23,695	19.5	25,861	20.8	△ 2,166	△ 8.4
(純資産の部)								
I 株主資本								
資本金	700	0.6	700	0.6	700	0.6	—	—
資本剰余金	4,752	4.0	4,752	3.9	4,752	3.9	—	—
利益剰余金	90,205	75.4	91,631	75.3	91,564	73.8	66	0.1
自己株式	△ 72	△ 0.1	△ 174	△ 0.1	△ 94	△ 0.1	△ 80	84.8
株主資本計	95,585	79.9	96,909	79.7	96,922	78.2	△ 13	△ 0.0
II 評価・換算差額等								
その他有価証券評価差額金	1,281	1.1	917	0.8	1,199	1.0	△ 281	△ 23.5
為替換算調整勘定	46	0.0	45	0.0	56	0.0	△ 11	△ 19.5
評価・換算差額等計	1,328	1.1	963	0.8	1,256	1.0	△ 292	△ 23.3
III 少数株主持分	—	—	—	—	—	—	—	—
純資産合計	96,913	81.0	97,872	80.5	98,178	79.2	△ 305	△ 0.3
負債及び純資産合計	119,579	100.0	121,568	100.0	124,039	100.0	△ 2,471	△ 2.0

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)		当四半期 (平成20年3月期 第3四半期)		増 減		(参考) 前期 (平成19年3月期)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比
		%		%		%		%
I 売上高	56,961	100.0	62,325	100.0	5,363	9.4	77,093	100.0
II 売上原価	23,128	40.6	23,838	38.2	710	3.1	30,620	39.7
売上総利益	33,833	59.4	38,487	61.8	4,653	13.8	46,473	60.3
III 販売費及び一般管理費	28,019	49.2	32,698	52.5	4,679	16.7	38,059	49.4
営業利益	5,814	10.2	5,788	9.3	△ 25	△ 0.4	8,413	10.9
IV 営業外収益	729	1.3	740	1.2	11	1.6	902	1.2
V 営業外費用	442	0.8	251	0.4	△ 190	△ 43.1	660	0.9
経常利益	6,101	10.7	6,278	10.1	176	2.9	8,655	11.2
VI 特別利益	335	0.6	14	0.0	△ 321	△ 95.8	626	0.8
VII 特別損失	471	0.8	466	0.8	△ 4	△ 1.0	1,027	1.3
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,965	10.5	5,825	9.3	△ 139	△ 2.3	8,255	10.7
法人税等	2,494	4.4	3,138	5.0	643	25.8	3,425	4.4
少数株主損失	13	0.0	—	—	△ 13	—	13	0.0
四半期(当期)純利益	3,483	6.1	2,687	4.3	△ 796	△ 22.9	4,842	6.3

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期)	(参考) 前期 (平成19年3月期)
区 分	金 額	金 額	金 額
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,965	5,825	8,255
減価償却費	3,446	3,368	4,544
のれん償却額	169	188	232
売上債権の増加額(△)・減少額	△ 3,361	41	△ 4,762
棚卸資産の増加額(△)・減少額	△ 242	△ 3,291	△ 846
仕入債務の増加額・減少額(△)	1,413	1,053	3,097
その他	△ 3,028	△ 1,229	△ 2,608
小 計	4,361	5,955	7,912
法人税等の支払額	△ 3,133	△ 4,537	△ 3,080
その他	188	273	173
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,416	1,691	5,005
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△ 2,530	△ 1,855	△ 3,332
国庫補助金等の受入による収入	1,500	—	1,500
投資有価証券の取得による支出	△ 4,810	△ 7,487	△ 6,789
投資有価証券の売却(償還)による収入	3,306	4,802	5,075
その他	54	△ 213	406
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,479	△ 4,754	△ 3,140
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
短期借入金の増加額・減少額(△)	△ 52	600	△ 52
長期借入れによる収入	—	600	—
長期借入金の返済による支出	△ 206	△ 201	△ 298
社債の償還による支出	—	△ 30	—
自己株式の取得・売却による支出(△)・収入	△ 25	△ 80	△ 47
配当金の支払額	△ 2,228	△ 2,564	△ 2,228
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,513	△ 1,676	△ 2,627
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	22	△ 11	23
<b>V 現金及び現金同等物の増加額・減少額(△)</b>	△ 3,554	△ 4,751	△ 737
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	13,580	12,842	13,580
<b>VII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	10,025	8,090	12,842